

|  |  |                 |              |          |     |
|--|--|-----------------|--------------|----------|-----|
| A-4  |  |                 |              |          |     |
| 主題   |  | 介護 DX について      |              |          |     |
| 副題   |  | システム導入による業務改善効果 |              |          |     |
| キーワード<br>1   | DX   | キーワード<br>2      | 業務改善         | 研究(実践)期間 | 3ヶ月 |
| 法人名・事業所名   |  | ベストリハ株式会社       |              |          |     |
| 発表者(職種)  |  | 山本健太(取締役)       |              |          |     |
| 共同研究(実践)者  |  | 山下真矢(事務職員)      |              |          |     |
| 電話   | 03-6284-4350   | FAX             | 03-6284-4351 |          |     |
| 事業所紹介  | <p>現在都内を中心とし、デイサービスを30店舗運営しています。ご利用者様の「やりたいを叶える」をビジョンに、データを活用したリハビリを提供しています。IT を駆使した DX デイサービスの先駆者となれるよう、職員も日々業務に取り組んでいます。</p> |                 |              |          |     |
| <p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>人材不足問題が常に周りについている介護業界ですが、業務量は年々と増えている現状を解決するために業務効率化というものは必須であると考えます。業務効率化といえど、利用者様へのサービス提供・リハビリなどは今まで以上に手厚く行いたい。そうすると、効率化する部分は書類業務などの事務作業だ。計画書作成・送迎計画作成・連絡帳作成・LIFE 入力、山ほどある書類業務を効率化するにはシステム・IT の導入が必須であると考えたが、なかなか活用のフェーズに事業所で至らなかった。事業所・会社全体で今までの業務方法からシステムを取り入れた業務に移行して、業務効率化を図っていく必要があると考える。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>1日のあらゆる業務(主に書類業務)をシステム・IT 化することによって、どのくらいの時間業務を削減できるか検証することを本研究の目的とし、次の3点を仮説とした。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業務をシステム化することでどのくらい業務が削減できるか</li> <li>2. 業務改善による従業員の満足度は上がるのか</li> <li>3. 本来の業務である利用者様へのサービス提供がどのように変わるのか</li> </ol> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>運営を行っているデイサービス 30 事業所の中から、ベストリハ葛西店にて、日々のデイサービスの業務を細分化し、従来の業務方法とシステムを取り入れた新たな業務方法とで、費やす時間・人員をそれぞれ比較し、どのくらい業務の効率化ができるのかを検証した。調査内容は次のとおり行った。</p> <p>調査期間：2022年4月1日～2022年5月31日</p> <p>調査方法：4月に旧業務、5月に新業務を行い、業務実施時間と実施人数の比較検証</p> <p>調査日数：4月、5月共に26日間(営業日)</p> |  |                 |              |          |     |

比較したデータを業務内容毎に分析をしたところ、業務数は 72 件あり、ほとんどが旧業務だと Excel を使用していた。72 件中 40 件、システムを使用した新業務に移行し、比較検証を行った。

#### 《4. 取り組みの結果》

分析の結果、システムに移行した 40 件の業務の内、13 件の業務が旧業務と比較し、業務時間を削減することができた。業務人数については 40 件の業務の内、3 件削減をすることができた。

その中でも、削減時間が 1000 分/月を超えた業務が以下 4 件である。

- ・連絡帳作成
- ・介護日誌作成
- ・記録入力（健康状態、状態把握などの日常記録入力）
- ・バイタルチェック

この 4 件の削減時間は平均で 20 時間を超えていて、4 件合わせると 80 時/月の業務削減に繋がった。これは弊社では 4 人分の月残業時間に値する数字である。

全ての業務の削減時間を合計すると、「606 分/月」を 1 ヶ月で削減することができた。時単位で表現をすると約 101 時間になる。

#### 《5. 考察、まとめ》

業務をシステム化・IT 化することによって、かなりの書類業務への負担が軽減でき、効率化につながることが分かった。また、今回は 1 ヶ月のみでこの結果が出たので、さらにシステム活用に慣れてくるとさらに削減時間を増やすことも期待できる。

この効率化できた時間を利用者様へのサービス提供の向上に充てて、利用者様の満足度アップや事業所の差別化になると考えられる。また、実際にリハビリ方針や評価などもシステムのビックデータを活用して、個人による定性的な評価からデータに基づいた定量的な評価へと移行できた。その結果、状態の改善などが数字として見える化ができるので利用者様のモチベーション向上にもつながった。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

#### 《7. 参考文献》

厚生労働省（2019）『介護分野の ICT 化、業務効率化の推進について』、URL：<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/suishinkaigo2018/health/dai6/siryoku4.pdf>（参照日：2022 年 3 月 20 日閲覧）。

#### 《8. 提案と発信》

今後高齢化社会が進むにつれ介護業界のニーズは高まってくることは間違いないです。しかし、人手が足りていないと昨今からずっと言われています。人手不足による業務量増加などで需要と供給が合っていない業界であるといえます。こういった問題をシステムや IT の力が今後必ず必要になるでしょう。ただ、介護業界は IT 化が進んでいない業界でもあります。

今回の弊社での取り組みが各施設・事業所の参考になり DX 化を進めようというきっかけになれば、本研究の意味があります。今後もこういった取り組みを行って、介護業界全体の発展へ貢献していきたい。